

【学校図書館に400冊以上の新刊が入りました！】

今年も「はちのこ図書館」に新刊が400冊以上入りました。9月22日（月）から新刊を一人1冊借りることができます。この機会にまた、いろいろな本に出会えたり、読書の範囲が広がったりすることを期待しています。現在、学校司書の永井先生や図書委員会の児童を中心に以下の活動を行っています。



■新刊コーナー 図書館の入り口に400冊以上

■ひと箱ボックス（永井先生、図書委員会の児童などのおすすめ本コーナー・心に関する本も）

■八小の先生による「おすすめ本」の紹介ポスターを2階渡り廊下に掲示。実際の本は図書館入口付近に設置。

毎年この「おすすめ本」は大人気でよく貸し出しされていました。

昨年度の60周年行事で青少年対策八小地区委員会の方々からの寄付で作られた高学年専用コーナー「はちのす」を始め、30人～50人の児童が中休みに利用しています。毎日開館していることで、利用人数も大幅に増えました。今後も皆さんに図書館を楽しんで利用してもらえようような取り組みをしていきたいと思います。

朝読書や各教科、ちょっとした時間を上手に活用し、児童の皆さんがすてきな本とたくさん出会い、読書を楽しんでほしいと思います。保護者の方も学校にお立ち寄りの際は西校舎の図書館をぜひ覗いてみてください。

今後は11月10日（月）から11月21日（金）の読書旬間で、保護者の方による読み聞かせ、しおり配布、図書委員会のイベントなどを予定しています。

司書教諭

【給食室より】

今年度、給食で使用している食材の生産者と会う機会がありました。その食材とは、給食に出している牛乳です。給食の牛乳は、群馬県にある東毛酪農業協同組合（東毛酪農）が製造しています。小平市から約2時間半かけて、東毛酪農の工場と群馬県の牧場へ見学に行ってきました。牧場では、牧場主の方が牧場や牛に関する話をしたり、実際に牛舎を見学させてくれたりしました。この牧場では、3～4名の従業員で約150頭の牛を世話しており、交代で毎日、牛の世話をしているとのことでした。毎日、牛の世話をすることは大変だと思い、牧場主の方に「仕事で大変なことは何ですか？」と質問したところ、「仕事は何の仕事でも大変です。特に、身体の具合が悪くてもやらないといけないところが大変です。」と答えられました。交代で勤務することで休める日もあるそうですが、身体の具合が悪い時も牛の世話のために働いているそうです。そのような方がいるからこそ、私たちは普段お店で牛乳を購入し、飲むことができるのだと感じました。



東毛酪農の工場では、工場長の方が特別に牛乳を製造している工場内を案内してくれました。1日に約2万5千Lの牛乳を製造していると聞いていたので、とても大きな工場かと思いきや、想像していたよりも小さな工場でした。限られた工場内のスペースで時間を決めて紙パックの牛乳、ビン牛乳、ヨーヨー牛乳を製造していました。工場内の見学で特に驚いたことがあります。それは、ビン牛乳のふたに印字されている消費期限の日付が、ビン牛乳が流れていくライン上で印字する機械によって付けられていることです。日付が入っていないビン牛乳のふたに、消費期限の日付が次々と印字されていく様子を見られたのはとてもおもしろかったです。東毛酪農の方にも「仕事は大変ですか？」という質問を投げかけると、「大変ですが、おいしいと言ってくれる人がいると嬉しいです。」との答えが返ってきました。大変だけれども、おいしいと喜んでくれる人のために、安心安全でおいしいものを届けたいという思いをもって、牛乳を製造していることを知ることができました。

1食の給食を作るために様々な食材を使っています。その食材のひとつひとつに生産者がいて、それぞれの方がいろいろな思いを抱えながら食材を作っています。普段、何気なく食べている給食に多くの方が関わり、子どもたちのために食材を作っているその思いを、栄養士の立場から代わりに伝えていきたいと強く思えるようになった機会でした。

栄養士